

ともに・・・

R8. 2. 17

自ら考え挑戦し ともに高め合う 北杵築っ子の育成

「わたしもやってみたい！」

～3年生“若宮楽”にふれて～

2月5日（木）5時間目、3年生の教室に、地域の小春稔さんが来てくださり、“若宮楽”のお話をしてくださいました。

本通信9月25日号でもお伝えしましたが、“若宮楽”は、若宮八幡社の仲秋祭で行われる、県指定無形民俗文化財の“子ども楽”です。室町時代に始まった長い歴史のあるもので、北杵築小学校の子どもたち数人も、この“若宮楽”に参加をしています。



“若宮楽”は、“楽の市”とも言われ、小春さんが子どものころは、神社周辺に店が並び、鍬や鎌など農具を中心に売られていたようで、多くの人でにぎわったそうです。

小春さんは、“若宮楽”で歌う『楽打ちの唄』を披露してくださいました。「ツー クー テ」「ヒー ヒャル」・・・と、意味がわかりづらい言葉の唄ではありますが、これを口伝で受け継いできているそうで、驚くばかりです。子どもたちは、なじみのない言葉に節をつけた唄に興味を持ったようで、「意味がわからないけど、おもしろかった」と授業最後の感想で述べている子もいました。

ちょうどこの時間、若宮楽に参加している子どもがいましたので、小春さんの唄に合わせて、太鼓を叩いてもらうことにしました。

小春さんに、太鼓を紐で胸の前に下げてもらいます。その太鼓を両手のばちで左右から叩くのです。

小春さんの唄に合わせて、上手に太鼓を叩き始めました。息がぴったりです。それだけではなく、足も唄に合わせています。他の子どもたちは、真剣な眼差しでその様子を見つめています。

唄と太鼓が終わると、「私もやってみたい！」と他の子どもたち。小春さんはそんな子どもたちに太鼓を胸に下げてあげ、太鼓の叩き方をやさしく教えてくださいました。一人が終われば、「次は、わたし！」・・・

“若宮楽”への興味が高まり、5時間目の終わりのチャイムが鳴っても、太鼓や他に持ってきてくださ

た衣装等から離れようとはしなかった子どもたちでした。

地域自慢の伝統文化である“若宮楽”。そのすごさやすばらしさにふれた貴重な時間となりました。



「楽しかった！」

～新1年生の体験入学～

2月2日（月）5時間目、来年度本校に入学予定の子ども園の園児たちが、保護者の方と来校し、1年生の教室で体験入学を行いました。

園児のみなさんが教室にやってくることを楽しみにしていた1年生。園児たちが入学後、小学校生活にすぐに馴染めるようにと、給食着や体操服を紹介したり、授業準備の仕方を教えてあげたりしました。



最後は、園児と1年生が一緒にすごろくを楽しみました。園児がさいころを転がします。出た目を読んで、園児の代わりに「1・2・3・・・」と言いながらこまを動かしてあげる1年生。お兄さんお姉さんぶりを発揮していました。園児のみなさんも、「楽しかった！」と、笑顔で学校を後にしました。



入学まであとわずかとなりました。園児のみなさんのご入学を、心よりお待ちしております。

心の準備ができつつあります

～中学校入学説明会～

2月13日（金）5時間目、中学校入学説明会がありました。子どもたちは保護者とともに、進学先の宗近中学校の先生の説明を聞きました。そこでは、通学路や自転車、また部活などの質問が出されました。だんだんと中学校に入学する心の準備ができつつあるようです。

